

東山遺跡第1次現地説明会表資料

日時 平成17年3月13日(日曜日)
場所 発掘調査現地

1. 調査名称 東山遺跡第1次発掘調査
2. 調査地 滋賀県甲賀市信楽町黄瀬 1091 他
3. 調査面積 250 m²
4. 調査期間 平成17年2月1日～平成17年3月中頃(予定)
5. 調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 宮木 道雄
6. 調査担当 文化財保護課
課長 雲林院 治夫
課長補佐 島田 礼子
係長 鈴木 良章
技師 小谷 徳彦(調査担当)

7. 調査位置と目的

今回の調査地は、史跡紫香楽宮跡の北辺に隣接した山林で、史跡紫香楽宮跡と平成14年度に県教育委員会が発掘した「鍛冶屋敷遺跡」の中間に位置します。

これまでの周辺の遺跡分布調査や住民からの聞き取りで紫香楽宮関連の遺跡が存在する可能性があることから、遺跡範囲確認のための試掘調査を実施しました。

8. 調査の概要

調査地から、2条の溝跡を確認しました。

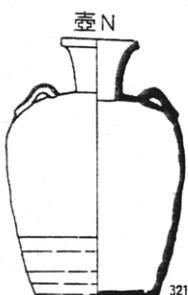
溝2(SD02)...幅約1.7m×深さ約0.3m×検出長約8.2m

方位をN2°15'Wにとる南北方向の素掘り溝です。史跡側にあたる南方向は後世の削平のためか途切れていますが、埋土から須恵器の長頸壺(1)や短頸壺(2)が押しつぶされた状態で出土しました。

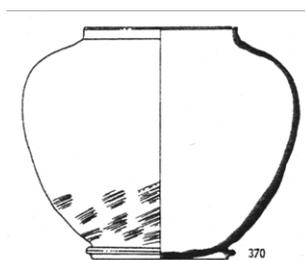
溝3(SD03)...幅約1.2m×深さ約0.1m×検出長約10.6m

方位をN2°9'Wにとる南北方向の素掘り溝です。埋土から遺物の出土はありませんでしたが、埋土の土質や色調が溝2とほぼ同じなので、同時期に埋められたものと推定しています。

また、遺構に伴うものではありませんが、9世紀初頭とされる紫香楽宮跡の軒丸瓦(3)片や奈良時代中頃の須恵器や土師器、時期不明の布目瓦の破片がコンテナ半箱分ほど出土しています。



1 長頸壺の形



2 短頸壺の形



3 軒丸瓦

10. ま と め

今回の調査で確認した2条の溝跡は方位や埋土が類似していることから一対のものであったことが推測され、道路側溝の可能性がります。

その場合、道路幅は溝芯間の距離で約11.5～12m程度となり、方位の傾きや検出した位置が平成12年度に滋賀県教育委員会が記者発表を行った「新宮神社遺跡」の「朱雀路」(平成16年3月に刊行された「新宮神社遺跡」では「推定道路1」)の南延長になることが推測できます。 4

測量が途中のため正確な数値ではありませんが、1/2500の地形図で確認すると2条の溝の中間線と史跡紫香楽宮跡の主要伽藍の中軸線がほぼ一致することから、この道路が寺院の北門に取りつく可能性がります。

なお、今回の発表した遺構の性格付けについては、紫香楽宮跡調査委員会でも検討していないので、あくまでも中間報告としての見解です。

今後、委員会などで詳細な分析を経た上で最終的な判断を行いたいと思います。

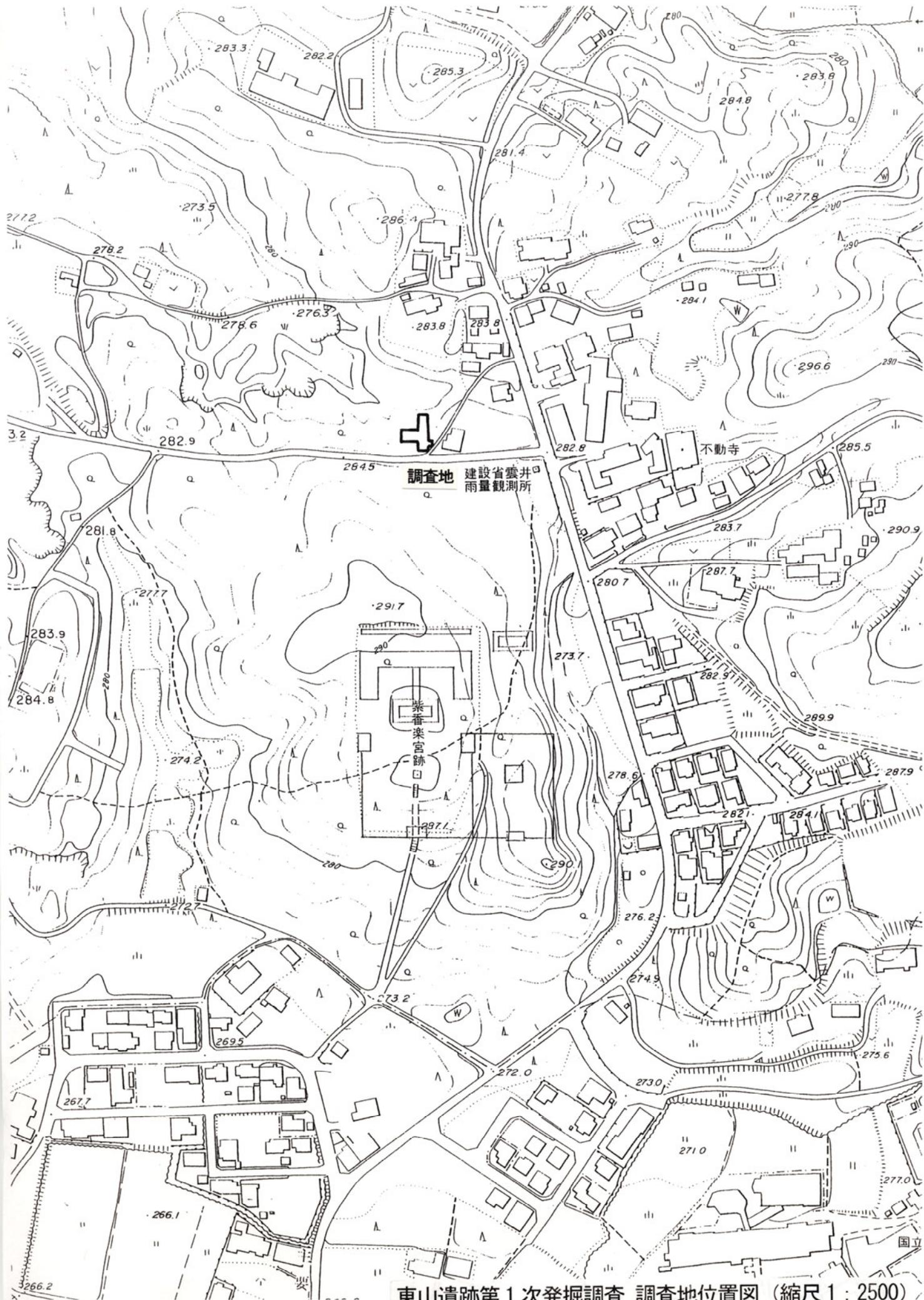
4 滋賀県教育委員会が刊行した報告書には、道路側溝の方位は約3度西に傾き、溝幅0.3～0.6m深さ0.03～0.05mと報告されています。

また、今回の調査地までのおよその距離は、新宮神社遺跡までが約670m、史跡紫香楽宮跡の金堂までの距離が約175mです。

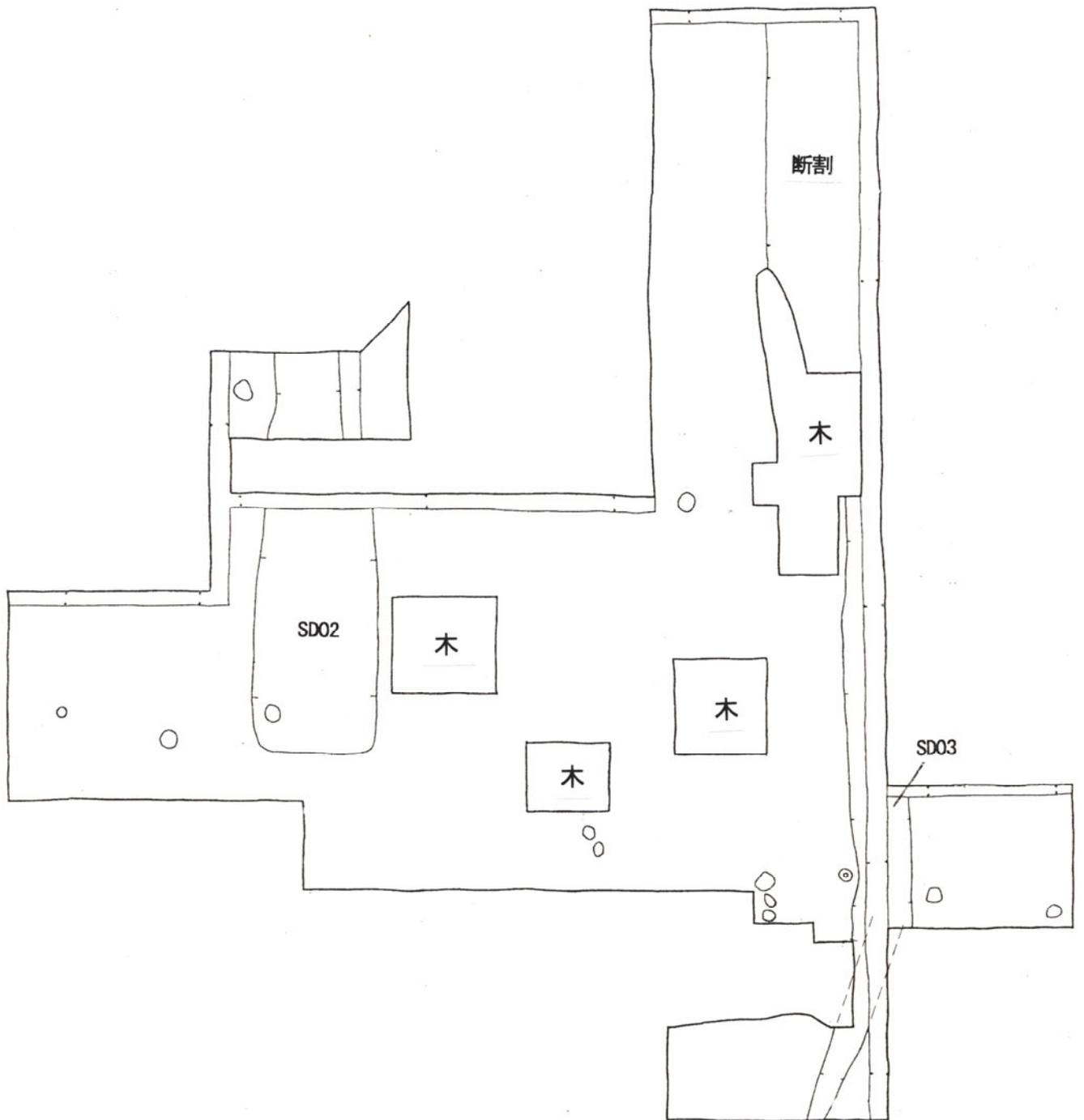


紫香楽宮関連遺跡の分布

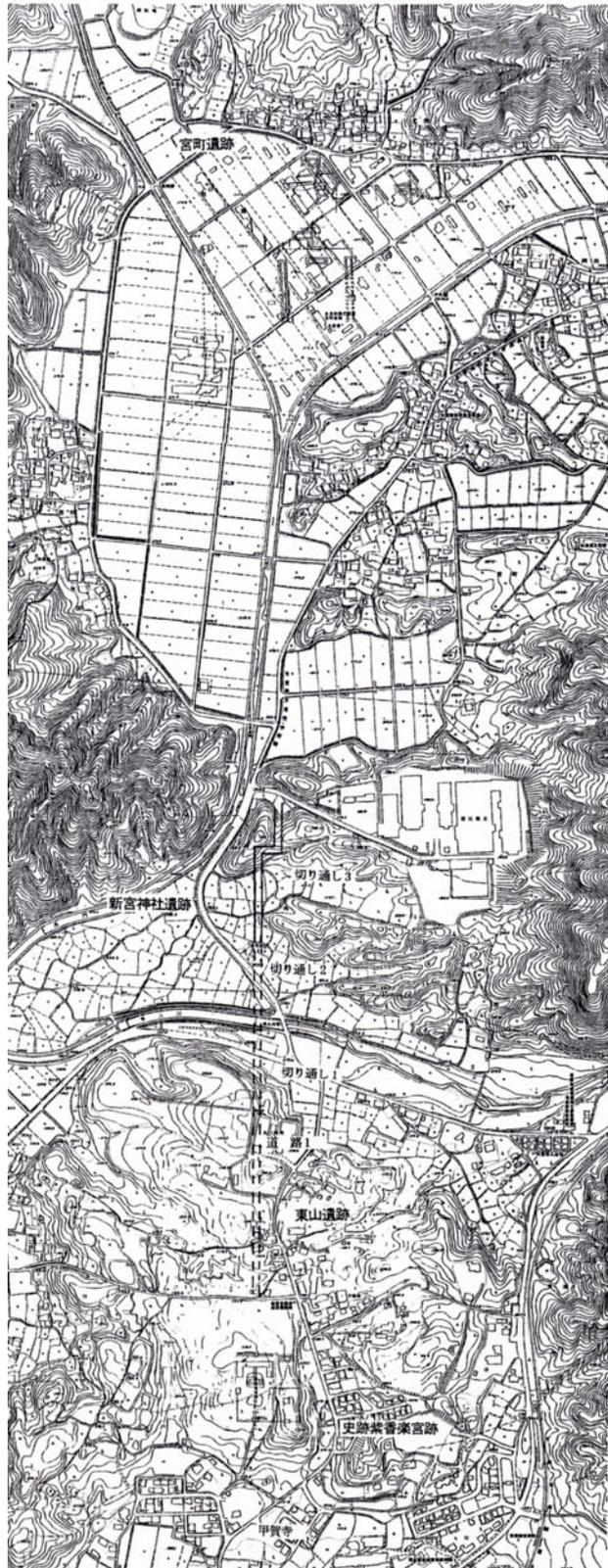
- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1 宮町遺跡 | 2 新宮神社遺跡 | 3 東出遺跡 |
| 4 東山遺跡 | 5 鍛冶屋敷遺跡 | 6 史跡紫香楽宮跡 |
| 7 東出西遺跡 | 8 雲井遺跡 | 9 北黄瀬遺跡 |



東山遺跡第1次発掘調査 調査地位置図 (縮尺 1 : 2500)



東山遺跡第1次調査 遺構概略図 1:125



紫香楽宮跡関連遺跡位置と道路遺構推定図(縮尺 1/12500)